



### 支部長挨拶

受け入れ報告

M (仙台市) . . . . . 2

N (福島市) . . . . . 3

寄稿 1 マレーシアでのサーバスを通じた交流に向けて T n . . . . . 4

寄稿 2 支部総会に出席して . . . . . T s . . . . . 5

寄稿 3 新家に幸福をとどけたい . . Peace Secretary . . . . . 6

事務局から . . . . . 7

新入会員紹介

## TOHOKU



### 支部長挨拶

みなさんのおかげ！今回の総会は難儀でしたね。

論語に言います。ともあり遠方よりきたる。また楽しからずや。

みなさんお元気ですか？消費税が上がり1年、何もかもが新たな値上げと負担の時代に入りましたね。会費が安いのがサーバスの特徴ですかね。さらに、国内外に何かと物騒というか、きな臭い事件がますます多いですね。我が家の近くでも2軒とも物置の火事が起こり、車が焼けたり耕運機が焼けたりしています。

ところで、国内会議は福岡でした。総会報告のとおりですが、会長の留任には1日を要して決まりました。東北支部も思いやられました。会員増加に向けて広報もしないといけないと感じました。国内会議は来年が札幌で29年度(30年3月)は東北になると思います。

さて、今回の総会は、開催までにこぎつけるのにTさんと難儀をしました。新潟からは、メールとハガキで開催通知を出すのですが、会場を間違えて案内し、会員もイマイチ低反応でした。結果として取りまとめに苦勞しました。やはり、4月に前倒しでやるか？とも考えました。なぜなら小さなお子さんの運動会が重なるのが5月で、行事と重なるのです。(来年は5月28日から

29日です。)

七県の国際交流協会にも広報の依頼をしました。会員募集の助成金は難しく、イベントや講師を呼んで呼びかける方式でないとなかなか助成してもらえません。しかも、その県内に事務所がないといけないのです。各県での会員交流により広めていくという我々の自助努力も大切だと知らされました。

いずれにしても、新会員を増やして、楽しい東北支部にしていきましょう。写真は翌日米沢善光寺で前田慶次の遺跡を訪ねた時のものです。



## 受け入れ報告

M

27-5-9 バングラデシュ 女性 Dr. K 40代

### 「宗教間のハードルを超えて」

Kさんは東北大学へ研究者として年一回は仙台に来ています。既に10年以上が経ちますから日本語はかなり上手に話します。しかし熱心なイスラム教徒のKさんは1日5回の祈りの時をきちんと守らなければならない、日本人の家庭に泊まることに長い間、躊躇して来てしまいました。

日本人の家庭を訪問にしたいが、出来ないという長い間の戸惑いのハードルをついに超えて、Kさんは今年の7月24日に初めて我が家に滞在してくれました。この日はイスラム教徒にとって大変に重要なラマダンの最終日でもありました。とても勇気の要ったことでしょうか1泊してくれお陰で、ラマダンの断食の厳しさ、祈りの前の儀式などを少しかいま見させてもらえました。その日のことは支部ニュース86号に書いていますので読んでいただけたかと思います。



### 「再会を果たして」

今年のKさんの来仙は5月上旬の12日間だけで、再会も帰国間際の5月9日にやっと実現しました。東北大学・片平会館の入り口で待っていてくれたKさんは美しい民族衣装の上に厚い冬用のコートを着ていました。バングラデシュの4月～5月は一年の内でも暑い日が続くので、仙台の寒さが辛いのでしょうか。

研究(環境学)のため毎晩遅くまでパソコンの前に向かってるので、外に出て気分転換をしても



raitakute大学の付近を歩いて、おしゃべりをしてとても喜んでもらえました。  
小学校1年生の娘さんから「ママ、早く帰ってきて！」の電話で泣かれてしまい朝まで眠れなかつたという話を聞いて女性が働くことの厳しさを改めて痛感させられました。

### 「バングラデシュについて」

世界で最貧国の一つといわれているバングラデシュですが、Kさんやご主人(医師・専門は細菌学)が海外に出て勉強したい国を選ぶのに、まず日本しか考えられなかったそうです。東パキスタンと西パキスタンに分かれ激しい紛争が起きたとき日本はバングラデシュの建国のため尽力を尽くしてくれたそうです。バングラデシュの若者たちは日本に行くために勉強に励んでいるようで、首都ダッカに日本語の専門学校が開校しました。夫が昨年に続き今年の1月(一番過ごしやすい季節)にもバングラデシュに行きましたが、ビジネスで付き合い方だけでなく人力車の引き手の人もとても友好的で気持ちの良い歓迎を受けたそうです。

Kさんとの話に戻しましょう。日本には春夏秋冬と季節がありますが、バングラデシュは6つの季節に別れていて興味深いです。春、夏、雨季、秋1、秋2、冬です。お正月は4月14日で、国の花は「蓮・ロータス」だそうです。まだまだいろいろ興味のある話を聞いてきましたが、来年の再会の後でまた「受け入れ報告」を書かせてください。



### 「サーバス会員になって欲しいが.....」

Kさんはまだ若く時間に追われていますから、直ぐにとは行かないかもしれませんがいつかサーバス会員になって欲しいと思っています。

### 受け入れ報告

N

(1) 経緯：Kさんから案内協力の要請があり、今回引き受けることにしました。

氏名：F。愛称バンチョ。チリ人男性。サンチャゴ生まれで30才独身。職業はジャーナリスト。

案内活動：6月3日 原発事故により全村避難している飯館村に友人と計3人で行く。途中広大な土地に山と積まれた放射性廃棄物を見て愕然とする。飯通小の線量計はpsSv/hを示していた。運良くというか所々で除染作業をしている様子を彼はカメラにおさめていた。もちろん車の中からである。外に出てシャッターを切れる雰囲気ではなかった。それらの記事を今回はスペイン紙に送りたいと言っていた。風評被害を少しでも払拭してくれればと思った。

6月6日 近くの公園で「吹き矢」を体験してもらった。日本でもまだ新しいスポーツであるこ

とを説明する。中心の的に当たり皆さんより拍手をもらい大変喜んでいて。6月9日に福島を去るという。

(2) 受け入れ期日：6月29日、30日。7月1日米沢へ。

氏名：F.J.D 50才

女性、職業は Programme Director 「System Whangrei」

出身国：New Zealand

活動：高湯温泉と吾妻温泉へ。露天風呂でとても喜んでいて。知り合いの食堂でラーメンを食べる。夜は緊急支援法による子供の家族と交流する。福島の状態と心と体の健康確保について説明する。このような福島に来てくれたことに心より感謝を伝える。

## 寄稿1

### マレーシアでのサーバスを通じた交流に向けて

T n

今回サーバスのホスト会員登録をいたしました。以前はトラベラーとしてヨーロッパや日本国内のサーバス会員との交流を深めてきました。今回夫婦でホスト会員登録をいたしました。今後ともよろしく願いいたします。

今回ホスト会員になろうと考えたのは、実は JICA ボランティアで、マレーシアで働くことが決まり、その間マレーシアのサーバス会員と交流をしたいと考えたからです。そこで今回は、私が今後マレーシアで行う予定のボランティアの内容と、JICA 二本松海外青年協力隊訓練所での生活の様子をご紹介します。

私のマレーシアでの派遣先は、首都クアラルンプール（現地では KL と呼ばれています。）のあるマレー半島ではなく、ボルネオ島の西側に位置するサラワク州クチンという場所です。自然豊かな環境にあるサラワク州立図書館で、より多くの地元の人が図書館を利用してくれるように魅力あるイベントを企画することが私のお仕事です。これまで私は宮城県の高校で国語を教えてきました。司書教諭の資格を持っているわけではないのですが、最近司書の先生とのコラボ授業をしていたので、学校教育で図書館はとても重要な位置を占めていると感じていました。今回マレーシアの人たちが図書館に興味をもってもらうように様々な角度から考えていくことになりましたが、これは私が常日頃考えていた生涯教育（学校教育以外での学び）と関係のあることなので、私自身とても勉強になりそうです。



具体的に要請されている仕事内容としては、日本に興味のある人が多いようなので、日本

文化紹介、日本語クラス開講、日本人による講演会のようなものの企画運営だそうです。写真は、マレー語の時間にワークショップの練習をした時のものです。マレーシアで人気のドラえもん折り紙を組み合わせました。

ここからは訓練所での生活をご紹介します。

6 : 30 朝の集い  
(点呼・連絡・ラジオ体操・ランニング)

8 : 45 語学クラス (50分3コマ)

13 : 00 語学クラス (50分2コマ)

15 : 10 現地での仕事や生活に関する講義  
(50分2コマ)

19 : 10 入浴・自学自習・自由時間  
(体育館でスポーツ、訓練生企画の自主講座)

23 : 00 消灯



これが月曜日から土曜日までの基本的な一日のスケジュールです。この他にも地域との連携を大事にしているので、所外活動で農家・保育所・デイサービスなどを二回訪問し交流させていただいています。週末にはスタディツアーで福島県内の様々な地域を巡って震災について学んだりしています。また、グラウンドにテントを張って一泊する野外訓練や、授業後に候補生(対処するときによりやく隊員として認められます。)が企画する自主講座などを通して任地で使える実践的な技術や考え方を学んだりします。

私がここでの生活で学んだことの一つは、人はそれぞれ自分の得意なことがあるので、それを集結すればなんだってできてしまう、ということです。当然のように思えますが、これを訓練所で実感できたということは幸せなことです。自分の持っているものをどう伸ばしていくかだけを考えるよりも、意見や技術の交換をすることで、自分の持っているものが刺激されよい方向へと進化する、つぼみと光の関係のようなものです。

今後もマレーシアでのサーバス会員との交流や、私のボランティアの様子などをご紹介しますと考えております。各国の文化のつぼみ、個人の潜在能力のつぼみを刺激しあい、よりきれいな花を咲かせられれば、世界はもっと美しくなると、私は思うのです。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

## 寄稿2

支部総会に出席して

T s

先日の支部総会は久しぶりにみなさんにお会いできて嬉しかったです。子供が出来てから何かと日常が忙しくなりトラベラーになるもの受け入れるものなかなか思うようにできずにいました

が、そろそろまた再開したいなあと思い、今回参加しました。とんぼ返りで総会だけに参加したのですが、久しぶりの米沢に着くと「あ〜、キヨカのアイスが食べたい、お昼に米沢ラーメン食べればよかった」とトラベラー根性がムクムクと沸いてきました。サーバスにおける個人間交流では、普通に旅行しただけでは経験できない、その国の奥底に潜む文化に触れることができます。若い頃にあっちに飛び、こっちで受け入れしながら出会った方々との交流はこの上ない宝です。また、そうした経験を増やしていければと思います。

### 寄稿 3

#### 新家に幸福をとどけたい

Peace Secretary

新聞での報道のように、災害公営住宅の完成が遅れたり、集団移転による宅地の分配などが予定より遅れたりして、仮設住宅生活の期限が2017年まで伸びております。約1600世帯がまだ仮設住宅で生活しています。

私たちが支援してきた小泉地区も、より小さなグループによる建築がはじまり、今年中に新居での生活を始める方もおります。また、集団移転による団地形成が当初100世帯を数えていたものの、5年目ともなった仮設新居での生活にはかなりの変化が生じ、計画が思うように進まなくなってきたのが現実のようです。

それでも小さな住宅地の完成に合わせ、今年9月にはチューリップの球根約10000個を植栽する予定を立てております。そして、来年の9月にはいただいておりましたスイセンの球根10000個をスイセンロードに植栽すると同時に、集団移転の団地沿道に桜苗木と各宅地に記念樹と花壇苗を寄付しようと計画を立てております。

これまで

2011年の地震以降仮設住宅に入居の折には布団や什器を持って行きました。

仮設住宅には米や毛布、敷布を運びました。

毎年12月には餅つきに行き、子どもたちにクリスマスプレゼントを渡しました。

これから

今年できる団地にチューリップを植栽します。

そして来年できる大型団地への引っ越しと新生活のスタートには花壇苗や記念樹の桜などをプレゼントできればと思います。記念樹が育ち、花開くときにサーバスのメンバーが多く訪れともに花見をすることができればと思います。

チューリップは毎年約10000株を宮城県川崎湖畔公園よりいただく予定で、本年はすでにいただいております。

集団移転団地の沿道に桜苗木約100本が目標。

スイセンロードには来年10000株植栽の予定で、毎年10000株の植栽を6年間継続してようやく被災前の姿に戻る予定です。

集団移転の各家庭への花壇苗は1トレイ約30株秋植え春咲きの花苗、記念樹は希望の苗を約100本。

費用がかかるのは桜苗木と記念樹と花苗です。寄付いただける方にご紹介いただくなどご協力ください。再び支援の大きなうねりと輪で支えてください。

桜には記念樹プレートをつける予定です。

植栽の時のボランティアは直前で募集します。ボランティアの移動にかかる費用は復興庁絡みの補助金を考えております。申請は来年早々に行います

## 事務局から

### 新入会員の紹介

TMさん 福島市

OMさん 亘理町

OMさんにはTが面談しました。住所から沿岸部のそれこそ津波到達地に住んでいますということでした。物静かなお寺の住職さんで、外国の方をホストしたことがあり、サーバスに興味をもっていただきました。これからの活躍を期待します。